

博士課程教育リーディングプログラム 平成25年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成25年度		
申請大学名	名古屋大学	申請大学長名	濱口 道成
申請類型	複合領域型（多文化共生社会）	プログラム責任者名	高橋 雅英
整理番号	S02	プログラムコーディネーター名	東村 博子
プログラム名	「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム		

＜プログラム進捗状況概要＞

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムは、多文化共生に資するウェルビーイング（豊かな生活を実現し権利を保障する）をアジアで実現するために、異文化相互理解に立脚した国際性と使命感を兼ね備えたグローバルに活躍できる女性リーダーを育成することを目的とする。具体的には、アジアのなかで、ウェルビーイングの実現に密接に関わる食（量的確保と安全）、環境（衛生）、健康（医療、福祉）、社会（脱貧困）、教育（次世代育成）における諸問題を、医学・保健学・農学・国際開発学・教育学の各分野で獲得した高度な専門性を活かし、グローバルな視点で意志決定できる女性リーダーの育成を図る。アジアにおける“ウェルビーイング”の実現には、多様な文化への理解と尊重が不可欠である。一方で、多くのアジア諸国で問題となっている高い乳幼児死亡率（日本の約数十倍）などの共通課題は、食や健康、環境、教育、社会システムの各分野における専門的な「知」を結集し、アジアの文化を理解・尊重できる専門家によって解決すべき課題であり、個別の学問領域では解決しえない課題へのグローバルな視点でのアプローチと課題解決を可能とする人材を育成する。

2. プログラムの進捗状況

本プログラムの正規学生の採用は、平成26年10月1日付であり、平成25年度は、女性リーダー育成事業を円滑に実施するための環境整備及び試行プログラムを行った。プログラム運営体制として、カリキュラムワーキンググループ(WG)、アドミッション・リクルートWG、国際連携WG、海外実地研修WG、企画評価WG、管理運営WGを組織し、それぞれのWGに責任者と5部局の教員を配置して、プログラムの円滑な運営体制を構築した。各部局にTV会議システムを導入し、3キャンパスに跨る部局間の会議を容易に行える体制を整備した。教育面では「語学力・発信力強化プログラム」の一環として、研究アシスタント及びモニター学生を対象にALCのオンライン英会話、Berlitzの英会話クラスを試行開講した。また、アジア各国の留学生を交えた合宿「All Night Cross-Cultural Talk」を開催し、多文化共生を学ぶと共に英語での議論の中で発信力の強化を行った。更に、ベトナムなど東南アジア4ヶ国で5回の実地研修を試行し、それぞれのプログラムで学生のアンケートにより改善点などを抽出し、プログラムの整備を行った。正規学生募集のための広報活動として、新聞への広告掲載、ホームページの公開、ロールモデルブックの作成、広報ビデオの制作を行うと共に、募集要項・カリキュラムを策定し、学生募集及びその説明会のための資料を整備した。また、前ASEAN事務総長などを招聘した国際シンポジウムを開催し、アジアの国際機関・大学などとの連携の強化を図った。